

ポローニア

ポローニアは県花「桐」の学名です。

第33号

2014-12

平成26年12月18日発行

発行 岩手県高等学校PTA連合会

【事務局】盛岡市上田三丁目2-1 TEL (019) 625-6386

E-mail: iwa_koupren@ybb.ne.jp FAX (019) 613-7795

ホームページ開設しました http://iwateken-koupren.org/

岩手の部活動「郷土芸能」活動と支えるPTA



▲努力が結実、岩泉高校郷土芸能同好会

夢の舞台に舞う

岩泉高校郷土芸能同好会

保護者 菊池 直子

岩泉町小本地区に伝わる「中野七頭舞」。七種類の道具を手に五穀豊穡や家内安全を願い躍動的に舞い踊ります。郷土芸能同好会は、兼部での活動のため部員不足や練習時間の確保が難し

い状況の中でも、朝練や夜練など自分たちで時間をつくり、練習を重ねてきました。また、新しいものにも挑戦しながら、自分たちの納得の行く演舞を目指して切磋琢磨する姿がとても印象的でした。町内外のイベント出演で送られる声援や拍手が大きな励みとなり、感謝を込めて一生懸命に舞い踊る姿、おやはしに合わせ、全員で力いっぱい演舞する喜びは活動の原動力であったと思います。

7月の全国大会では文化庁長官賞に輝き、東京公演を勝ち取りました。その連絡を受けた時は、今までの努力がやっと実ったのだという思いが込み上げ、思わず涙が溢れたのを覚えています。

国立劇場という夢の舞台では、高校生らしい躍動感あふれる踊りを披露することができました。ご指導いただき、また保存会、先生方をはじめ支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。岩泉高校郷土芸能同好会「中野七頭舞」に大きな拍手を送ります。

地域と家庭に支えられて

岩泉高校郷土芸能委員会

顧問 阿部 恵子

岩泉高校郷土芸能委員会は現在17名で活動しています。新入部員は4月から約1カ月間に全演目9つの踊りを習



▲積み重ねた稽古からの岩泉さんざ踊り

習とは違い、お客様を前にした出演は緊張しますが、出演のたびに応援に来てくれる家族や観客の方々からいただく温かい声援に、さらに練習を積んで、より喜ばれる演技を披露したいと決意を新たにします。

地域の方々は、年間約30回の公演の中で生徒の踊りの成長ぶりを見守り、気づいたことを気軽にアドバイスしてくださり、また衣装の寄付、昔語り講習会の開催、小道具制作の協力など日頃から地域ぐるみで郷土芸能委員会の活動を応援していただいています。

昨年の全国高総文祭郷土芸能部門優秀賞入賞は、仲間たちや、細やかに指導してくれる卒業生、根気強く導き高校生に教えるのが生き甲斐と言ってくださるコーチ、心身共に温かく支える家族、地域の方々がいてこそ得られた結果でした。深く感謝申し上げます。

岩手は郷土芸能の宝庫

全国高総文祭の郷土芸能部門において、岩手県は数多くの上位入賞を果たしています。全国上位4校が8月の東京公演（国立劇場）に出演しますが、この3年間で上記のとおり今年は岩泉高校、昨年は雫石高校、そして昨年は北上翔南高校の「鬼剣舞」（最優秀賞）が出演し、全国から注目されました。

全国高P連大会福井大会 東北地区高P連大会 開催される

全国大会／平成26年8月22日(金)

23日(土)

東北大会／平成26年7月5日(土)

第64回全国高等学校PTA連合会大会福井大会は「教育と考ふ未来に引き継ぐ知と恵み」をテーマに、8月22日(金)・23日(土)に開催され、岩手県から209名参加しました。「サンドーム福井」をメイン会場に全体会が3会場、分科会が7会場で行われました。1日目の基調講演は「今求められる考ふ脳科学者からの提案」と題して脳科学者の茂木健一郎氏の講演がありました。午後は分科会が行われ、金ヶ崎高校の高橋清治会長が第4分科会「家庭教育とPTA」で発表を行いました。2日目の記念講演では「福井の恐竜くアジヤ、そして世界へ」と題して福井県立恐竜博物館特別館長の東洋一氏の講演がありました。閉会式では内館茂会長が次期開催県としての挨拶の中で岩手県人の心の温かさを伝えるとともに、ビデオで岩手の風土や高校生を紹介しました。最後に岩手県参加者全員がそろいのポロシャツを着用し、幟や横断幕を掲げ、全国の方々に来年の岩手大会への多数の参加を訴え



▲大会旗を受け取る内館会長

全国・東北大会 岩手県教育表彰受賞者名簿

- ◆第64回全国高P連大会会長表彰
団体表彰 黒沢尻北高等学校 PTA
千厩高等学校 PTA
- ◆平成26年度岩手県教育表彰 葛巻高等学校 PTA
- ◆第63回東北地区高P連大会
感謝状 栗石高等学校 松尾榮一
盛岡第三高等学校 藤原誠司
花巻農業高等学校 高橋年徳
一関第二高等学校 佐藤栄一
個人表彰 岩泉高等学校 佐藤幸一
- ◆第18回東北地区高P連広報紙コンクール
優秀賞 水沢工業高等学校 黒沢尻北高等学校
優良賞 水沢商業高等学校



▲福井大会閉会式で岩手大会をPR

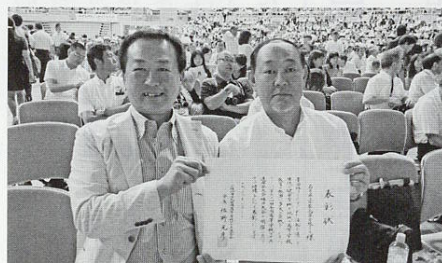
は盛岡南高校の佐藤達見会長が「盛岡南高校PTA活動について」創立30周年に向けた取り組み」と題して発表を行いました。午後は東京演劇集団「風」による「ヘレン・ケラー」ひびき合うものたち」の公演を鑑賞しました。

第63回東北地区高等学校PTA連合会大会は「生きることを 子どもと共に 見つめて」をテーマに7月5日(土)大館市民文化会館等で開催され、岩手県からは206名参加しました。研究協議で

地域と共に歩み、喜びを創る活動が評価

千厩高等学校PTA会長
千葉 弘之

千厩高校は岩手県南端にあり、時代ごとに地域等から求められる人材の修学の場になっています。現在の生徒数は580人弱ですが、少子化の影響で今後減少していくことが懸念されています。そのような中、我々PTAは学校を元気にしたいという願いから各種活動の充実を図っています。特に文化祭での「餅ふるまい」は学校の田んぼに田植えをし、稲刈り、脱穀と行いました。この活動は学校に思いを寄せる地域の方々と懇親を深める中で生まれたものであり、PTA会員の他に、日頃より生徒の活動を支援して



▲栄えある全国団体表彰 さらに学校を元気に!

くださる千厩ロータリークラブの皆さんや、有志の方々にも参加いただきました。文化祭当日に「餅ふるまい」を皆で行い、多少の苦労があつたことも、今では大勢の喜びにつながっているのです。今回の全国大会団体表彰の栄を、さらに学校を元気にするものにかえていきたいと願っています。

創る心に残る全国高P連大会 岩手大会

岩手県高等学校PTA連合会会長
内館 茂

2015年8月20・21日。高等学校PTA連合会の全国大会が盛岡で行われます。参加者約1万人の岩手県でも10年に一度あるかないかの規模の大会です!去る八月の福井全国大会にて、開催県のPRをしてまいりました。一都市での度重なるクレーム対応に疲れ果てていた、ファストファッションの店で働く青年が、岩手へ転勤になりました。ある日、交換の品を車で2時間の田舎のおばあちゃんに届けたところ、大変喜んで手を握りながら「遠いところよく来てくれ

たあ。まず休んでいつてける。腹へった。食ってけ。」と言って、パンと牛乳をくれました。帰り際おばあちゃんは姿が見えなくなるまで手を振ってくれました。青年は帰りの車で、パンと牛乳を手にして涙が止まらなかつたそうです!私は、私たちは、岩手がとても大好きです!岩手に、全国の皆さんが来ていただくこと、とても嬉しく、誇りに思います。豪華なもの、華美なものはないかもしれないけれど、皆さんの心の中に、何か一つでも、心に残る、心の感じられる岩手大会をみんなで創りたいなあと思います。PTA、教職員の皆様も協力のほどどうぞよろしく願っています。

会場から共感の声／発表は好感触

全国大会

金ヶ崎高校PTA会長

高橋 清治



第4分科会のテーマは「家庭教育とPTA」で、家庭教育力への啓発が、

発表者の他にパソコンを操作する人や寸劇をする人など大勢での参加でした。その3人の発表は、学校紹介やビデオ上映、過去の表彰歴の紹介などでした。話を聞くと、原稿やスライドの準備は学校、PTA会長の役割は発表という分野を行なったことで、自分の得意分野とはいえ、もう少し分担したほうがよかったと反省した次第であります。

学年PTAから」と題して発表を行いました。私はPTA総会と学年PTAを契機にPTA活動を活性化させようという内容で発表しました。

しかし、会場の参加者から質問があり、試行錯誤している取り組みについて包み隠さずお話ししたところ、会場から笑いが漏れるなど好感触でした。翌日、来年度の岩手大会のPRを行っていたところ、「発表を聞いたよ」とか、「昨日の発表について聞きたいことがある」と声を掛けていただきました。私の発表が評価されたものと感激しました。

東北地区大館大会で発表して

東北大会

盛岡南高等学校PTA会長

佐藤 達見



7月4日・5日に開催された当大会では、盛岡南高校が平成24年度に実施した「創立30周年記念事業」

人前で発表することに戸惑いと緊張感でいっぱいでした。そんな中、発表直前まで原稿や資料の見直し・訂正をしながらも心強い味方だったのが、小野寺先生と「キーノート」というソフトでした。このソフトはタブレットとPCを、無線接続でスクリーンに映し出される画像とタブレット原稿とを連携させる、スクロール可能なものです。発表直前に原稿修正をしても修正内容が反映されるので、発表に大きな威力を発揮してくれました。

この記念事業の準備は平成22年度から協議を始めて、同窓会・生徒・教職員・3代にわたるPTAの連携・協力で進めてきたこと。また、各界で活躍中の同窓生との交流会や出前授業が在校生に強い印象を与え、大きな財産になったことなど、大成功を収めた取り組みの内容を12分間で発表しました。

この発表を経験して多少は成長できたと信じ、今後もPTA活動に取り組んで参りたいと考えております。



▲葛高祭ファミリーレストランの風景

このたびの岩手県教育表彰受賞は、私たち葛巻高校PTAにとって大きな喜びであります。また、この受賞は先生方をはじめ、これまで当PTA活動を継続してくださった

葛巻高等学校PTA会長
波紫 兼二

子供たちに身近なPTA活動を目指して

岩手県教育表彰

小さな力を大きな力へ

東北大会で感謝状

一関第二高等学校前PTA会長

佐藤 栄一



このたび東北地区高等学校PTA連合大館大会において感謝状を頂戴致しました。これ

もひとえに先生方、PTA役員の皆様、会員の皆様のご協力の賜と感謝致しております。この場をお借りして御礼申し上げます。

2年間PTA会長を務めさせていただき、多くの方と活動を共にでき、数多くの貴重な体験をさせていただきました

た。子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化し、価値観も多様化しているなか、21世紀を担う子どもたちが豊かな社会性と優れた想像力を養い、自ら責任を持つて行動できる人間に成長して行くことは、すべての人の共通の願いです。PTA活動はその一端を担うためのものですが、仕事と両立させての活動であり、制限があります。しかし、一人ひとりの力は小さくても、多くの方の協力・後押しを受けて大きな力へ変えて初めて成し遂げることが出来ます。これからは私も地域の一員として協力させていただきたく存じております。また、平成27年度岩手大会の成功を祈念して御礼とさせていただきます。

多くの先輩会員の方々の御尽力の賜であり、ここに深く感謝申し上げます。

葛巻高校は地域に根ざした中高一貫教育を掲げて活動をしています。私たちは、このような高校生たちの身近なところで支えとなろうと、交通安全街頭指導やPTA役員による面接指導、「葛高祭」においてのファミリーレストランの運営を行っています。

多くの会員の方々が参加し、生徒たちと関わりを持つPTA活動を、今後も一体感を持って円滑に進めて行こうと決意を新たにしております。このたびは、ありがとうございました。



▲会長研修会で発表する中六角さん(左)と真田さん



▲熱い思いを語る内館会長

研修会初日は午後2時から「研究協議Ⅰ」が行われました。県高P連の内館茂会長は挨拶の中で、この夏に行われた全国大会福井大会で来年の岩手大会プロモーションビデオを上映したことを報告しました。福井大会では延べ2千人近くの方がスタッフとして運営を支えました。内館会長は「2千人の方が自分のこととして心の込められたおもてなしをしていたと感じました」と話し、それが参加者の高い評価につながったと思うと説明しました。「来年の岩手大会では、ありがとう、おもてなしの気持ちが大切だと改めて思

26年度岩手県高等学校PTA連合会 第24回会長研修会

実践活動めぐって意見交換 来年の全国大会へ協力を確認

平成26年10月17日(金)・18日(土) [会場] 花巻市ホテル千秋閣

第24回会長研修会が10月17・18日の両日、花巻市のホテル千秋閣で開かれました。県内各高校の会長、副会長ら60人が参加。実践活動をめぐって活発に意見を交わし、来年盛岡地区を主会場に開かれる第65回全国大会岩手大会に向けて、全県的に協力を仰ぎながら積極的に取り組むことを確認しました。

いました。全国大会にはたくさんの皆さんに運営を手伝ってもらわないといけません。会長、副会長の皆さんから、各学校に帰って直接話してもらえればうれしいと思います」と協力を呼びかけました。来賓の県高等学校校長協会の在原眞花巻北高校長と青森県高等学校PTA連合会の本谷隆司事務局長が挨拶を述べられました。最初に盛岡市立高校PTA副会長の真田由美子さんが「本校のPTA活動の紹介、近年の新たな取り組みから」と題して事例発表しました。同校は生徒数900人の大規模校ですが、生徒は「文武両道」の校是を体現する活発さでクラスマッチや文化祭は盛り上がりがあります。PTA委員会としてドリンク提供や「おやじの力もち」と名付けた活動は生徒と直接触れ合うことができ、参加者に好評で、「餅つきや餅ふるまいで本当に力を発揮したのは結局おふくろでしたが、結果に大満足でした」と話しました。葛巻高校PTAの中六角保広副会長は「子供たちとともに歩むPTA活動を目指して」と題して発表しました。同校は生徒数がかつて400人を超えたこともありましたが、現在は6学級12人に減少しました。PTA活動は交通安全街頭指導や就職希望者への面接指導、文化祭でのファミリーストランの運営など多彩。研修旅行は好評で、会員間の親密度が向上するとのこと。「小規模校ながら、いろいろなことにチャレンジしています」と話しました。司会を務めた遠野緑峰高校の昆明美会長は「こういう場で一言でも発言してほしいなあと思うので」と話し、女性の出席者を次々指名して発言を促しました。全員がそれに答え、それぞれの実践報告に対して質疑も交わされました。このあと花巻新渡戸記念館の嶽間澤茂



岩手県高等学校
PTA連合会 前会長
松尾 正弘

PTA活動から離れて2年になります。思えば、子どもが小学校低学年の頃から高校卒業まで10年余りPTAに関わってまいりました。

教育の最大の目標は、子どもを一人前の社会人に育て上げることです。学校教育だけではまかないきれない、欠落した部分を埋めるのがPTAの役割ではないかと思えます。PTAは、会員同士の情報交換を通じて見識を高め、子どもたちの健全な育成に力を注いでおります。その成果は確実に表れていると思います。

進学、就職、どちらにしても子どもたちはもうすぐ親の手を離れます。高校を卒業してもまだしばらく多少のすねかじりは続くでしょうが、社会人としての資質を整える最終段階にあります。きちんと挨拶できますか？ お礼が言えますか？ 自分の非を認めて謝れますか？ 相手の話に耳を傾けられますか？ 自分の考えをはっきり言えますか？ こんな当たり前の、最低限の礼節が、社会で意外に役立ちます。今になって思えば、PTAはそれにずいぶん貢献しているように思います。

館長が「花巻と新渡戸稲造」と題して講演しました。稲造の祖父の伝、父の十治郎らの業績と花巻とのかかわりなどを詳しく紹介しました。2日目は「研究協議Ⅱ」として、来年の第65回全国大会岩手大会の予算措置や概要について事務局から説明がありました。それをもとに出席者全員が意見や要望、質問を交わした後、内館会長から再び各PTA会長に協力を求める呼び掛けがあり、出席者から「協力するので声を掛けてほしい」という発言が相次ぎました。

一人ひとりがより良い社会の礎に 第14回 母親会員交流会

第14回母親会員交流会は、7月3日午前10時30分から盛岡市のサンセール盛岡で開かれました。県内の母親会員ら約180人が参加しました。スローガンは「つなげよう、みんなの心」。テーマは「未来を担う子どもたちの幸せを願い、今できること」でした。スマホをめぐる問題点や解決策などについて専門家の講演があり、参加者は高い関心を見せました。内館茂会長は「子どものときは何でも分かり合っていた母親だったのに、離れて暮らしてからはすぐケンカになってしまいました。自分の親であっ



▲グループ討議～子どもの健やかな成長は共通の願い～



▲全体協議で発表する水沢工業高校の佐藤早苗さん（中央）と一関第一高校の井上恒子さん（左）

ても以心伝心ではなく、言葉でちゃんと伝えなければいけないんだと思いました。自分の子どもに対しても愛しているとか、大好きだとか言葉で伝えることが大事だと思っています」と、自身の体験を踏まえてあいさつしました。来賓として県教育委員会生涯学習文化課の藤原安生担当課長が出席し、松下洋介総括課長の祝辞を代読されました。

引き続き、総務省東北総合通信局の岡元紀電気通信事業課長が「ネット利用をめぐる動向と情報リテラシー向上の取り組み」と題して、そしてデジタルアーツ株式会社経営企画部コンシューマ課の工藤陽介課長補佐が「疑似体験で学ぶスマホにひそむ危険とその対策」と題して講演し、「スマホによる被害を防ぐには、まずフィルタリング」という呼び掛けに真剣に耳を傾けました。

講師と会場との間で「公開を限定するのでツイッターを許可してと子に言われているがそれならLINE（ライン）で間に合うのではないか。どう違うのか」といった、臨場感あるやりとりもありました。「みんなが使っているからとスマホを買い与えたが、どんなアプリを入れているか分からない」という声もあり、親の不安感が表れていました。講師は「親も自分でやるしかない」と話して会場を沸かせました。午後から、母親委員会の長澤恵子副委員長を司会者に全体協議が行わ

れました。水沢工業高校母親委員会副委員長の佐藤早苗さんは、朝のひと声あいさつ運動や模擬面接指導、水工祭でのママ喫茶などの活動について写真を投影しながら意欲的な取り組みを紹介しました。一関第一高校母親委員会委員長の井上恒子さんは、併設型中高一貫教育制度が導入されて6年目を迎えた学校の現状に触れながら、ひと声運動や消費者講座などの母親委員会の活動を紹介しました。「親元を離れても、たくましくかつ誠実に生きていくための準備をさせる取り組みを考えていきたい」と話しました。

このあと数人ずつがグループになって取りまとめ作業を行いました。くじ引きで指名された発言者が協議内容を報告し質問に答えました。千厩高校からは、盛岡市立高校でやっているクラスマッチの取り組みについて興味を持ったという報告がありました。閉会行事で、秋田県高校PTA連合会母親委員長の楊葉子さんが講評しました。最後に佐々木秀子母親委員長が「子どもたちを健やかに育てていきたいという願いが子どもたちに届き、地域の教育力を高めて、私たち一人ひとりがよい良い社会の礎となれるよう、これからも努力して参りたいという気持ちでいっぱいです」とあいさつしました。



▲あいさつする佐々木秀子母親委員長

がんばる岩手

第8回

種市高等学校 PTA 会長 城内 勉



岩手県最北に位置する本校のある洋野町は県境の町です。在校生も青森県内の生徒も通う学校で、地域的にも青森県と近接していることもあり、階上町や八戸市など青森県からの生徒も就学しているほか、全国唯一の「海洋開発科」においては全国規模での入学希望者が希に入学することもあります。

さて、東日本大震災津波では漁港施設や水産加工場などが大きな被害を受けましたが、幸いにも人的被害がなかったことは不幸中の幸いでした。

震災直後から本校生徒も復興の一助となるべく、津波の被害を受けたウニの種苗施設の瓦礫撤去の手伝いなどを行いました。

復興が進む中、昨年は連続TVドラマ「あまちゃん」が放映され、ドラマの中で本校海洋開発科の実習棟が撮影に使用されたほか、「南部ダイバーの歌」も使われたことにより南部ダイバーの知名度は高くなりました。

また、地元も被災地であったこともあり、目立った被災地支援こそできませんでしたが、被災地にいたことで、生徒たちは優しさや、強さを育んだものと感じています。洋野町の復興も最終段階に入りつつありますが、全体的にはまだまだ復興したとは言えません。

今後とも機会あることに被災地への思いを忘れることなく、PTAとしてもいろいろな形で学校と関わりながら、支援を続けて行ければと願っています。



▲優しさと強さ。被災地への思いを忘れない

変革の時代、心豊かに逞しく 生きる高校生の育成を目指して

高橋 岩手県政策



▲大槌高校 山本貴子先生



▲久慈高校 伊東道夫先生

平成26年度第44回事務局長研修会は、10月31日盛岡市ホテルルイズにて55校からの参加者で行われ、研究協議発表2校、来年度開催される全国高等学校PTA連合会大会岩手大会についての連絡等報告された。

①大槌高校 山本貴子先生

「ともに歩むPTA活動であるために」

全校268名中、173名が「いわての学びの希望基金給付」の対象生徒であり東日本大震災による被害が大きい地域にある学校である。昨年度PTA研修旅行は

18名で世界遺産平泉中尊寺へ、文化祭PTA展示ではフラワリースを制作展示した。広報委員会は年2回PTA会報発行、交通安全委員会は町の巡回指導員として年2回夕方から1時間程度町内巡回に参加、グラウンド内での小中一貫校建設工事等もあり、活動を強化している。母親委員会は文化祭で食堂を運営し豚丼・うどんのみのメニューで好評発売、クラスマッチ1日目はカレーを全生徒職員分作り提供、いずれも活躍している子供の姿を見たいと、委員以外の保護者も参加している。平日17時30分よりPTA総会開催、その後学年PTAを開催した。

②久慈高校 伊東道夫先生

「総会出席率に見る本校PTAの取り組みについて」進路指導課との有機的連携を図る」

PTA総会出席率は51.3%と比較的高い。毎年保護者向けの進路講演会を行っている。講師は校長、副校長、予備校校長等、校内外年度毎に変えながら大学進学に保護者が関心を持つよう工夫している。また、生徒卒業後「PTA賛助会」へ全員加入することで、周年行事への参加や地域と連携したPTA活動を行うことが可能となっている。PTA役員選出も保護者役

年に一度の事務局長研修会

平成26年10月31日(金)
会場／ホテルルイズ(盛岡市)



▲ILC推進室 高橋秀和主事

員のそれぞれの人脈を活かして適任だと思われる保護者に直接依頼することでスムーズに決定することから、保護者同士の横の連携が強化され、活発なPTA活動へつながっている。

「大学で何を学べるのか」「どうすれば大学に入学できるのか(合格までの流れ)」「費用はどのくらいかかるのか(進学費用)」。保護者が関心を寄せる3つのテーマに進路指導課と連携を深めながら、PTA総会が保護者にとつて有益な情報を提供できる場でありたいと考えている。

国際リニアコライダーを東北に!!

講演 「ILCについて」

講師 岩手県政策地域部科学ILC推進室 主事 高橋 秀和

「インターナショナル・リニア・コライダー」(略称ILC)は、全長31.5kmの地下トンネルに建設される直線衝突加速器を中心とした大規模研究施設。世界中の研究者が協力して、「世界に一つだけ」建設しようという計画である。現在、素粒



子物理学者の国際的組織が検討を進めている。東北実現は産業振興、雇用創出、地域面で大きな意義をもつ。アジア及び世界の基礎科学水準の向上に貢献し、日本の再生、国際プレゼンス、安全保障の向上に寄与するなど、東日本大震災からの復興と再生に資する。東北実現の意義と東北の将来に対する想いを理解いただき、産学官が連携を密にしなが、それぞれの分野で活動に取り組むことが必要である。

記録：佐藤友紀恵(関工業)

請求なければ支払いなし

(一社)全国高P連賠償責任補償制度

PTA(学校)単位で加入する制度で制度発足後13年目となりました。

〈加入状況〉

・全国 1,921校/1,147,757人 ・岩手県 69校/29,037人

〈事故の際は〉

全高P連賠償責任補償制度事故受付電話 0120-119-110

岩手県高P連高校生総合保障制度

〈加入状況〉 Aプラン(病気補償あり) 63校 2,674人

Bプラン(病気補償なし) 62校 584人

Cプラン(自転車重点型) 63校 1,379人

〈引き受け保険会社〉AIU保険会社盛岡支店

TEL 019(653)1411 FAX 019(623)3541

岩手県高P連委員会活動報告



健全育成委員会
昆 明美
(遠野緑峰高等学校)

さわやかな一日は

朝のあいさつから

今年度、東北地区の健全育成委員会では「登校時ひと声運動・マナーアップ運動」スマホや自転車等ルールやマナーの周知徹底」などが話題となり、岩手県も方針に従って引き続き取り組むことになりました。県の第1回委員会では、具体的な実施方法は県で統一せず、それぞれの学校や地域の特性に応じて目的の焦点を絞った効果的な方法で行うことと、参加率の高い実践例等を他の学校に紹介し、今後もより良い方法を考えてい



進路対策委員会
高橋 清治
(金ヶ崎高等学校)

多様な産業形態に
則した進路対策を

今年度の進路対策委員会の副委員長は水沢工業高校の阿部一憲さん、委員は花北青雲高校の堀田圭二さん、釜石商工高校の雁部美代子さん、久慈東高校の生平孝洋さん、そして、委員長は私、金ヶ崎高校の高橋清治です。
6月18日に開催されました第1回進路対策委員会の内容についてご報告いたします。最初に昨年度の活動報告が

くことで方針がまとまりました。
また、本校では今年度「あいさつ・マナーアップ運動」の幟を作成し、例年実施している校門前の活動に加え、遠野駅前朝のJR上下線が交わる時間帯にも行いました。保護者や先生方の他に生徒会や生活委員会と一緒に朝の気持ちの良いあいさつができ、駅周辺では他校の通学生徒や通勤中の地域の方々にも声を掛け、市民の方々にもこの活動をPRすることができました。また他の活動として、生徒と保護者それぞれに携帯電話安全教室を実施し、マナーアップにも取り組みました。
あいさつは人とのコミュニケーションで最も大切なことであり、マナーを守り、心の通ったあいさつができるようPTAとして継続して取り組んでいきたいと思っています。
今後も健全育成委員会の活動が有意義なものとなりますよう継続した実践協力をどうぞよろしくお願いいたします。

行われましたが、あいにく前年度の委員長が欠席でしたので、県事務局が代わって報告を行いました。今年度は昨年度の活動を参考に、有意義な進路対策委員会としての活動を行おうと話し合いました。また、例年実施しております新規卒業者の雇用促進に関する陳情訪問については、就職活動が始まる前に訪問の際の情報を各高校に最新情報としてお伝えできるよう、来年より訪問することでも申し合わせました。
本進路対策委員会の活動報告によると、学校の形態・普通高校か専門高校か総合高校かによって取り組みが異なり、また、各地域の産業形態も様々であり、全ての学校が課題を共有しているわけではありません。進路対策委員会がどのような役割を果たすべきか、まさに難しい課題であります。



調査広報委員会
水野 司
(住田高等学校)

「伝える」から「伝わる」広報へ

今年度の調査広報委員会は、副委員長・佐藤浩徳(大船渡高校)、委員・川村司(盛岡市立高校)、中鉢謙郎(二関工業高校)、太田真弓(久慈工業高校)で活動がスタートいたしました。
6月4日に第1回委員会を開催し、昨年度の引き継ぎ、今年度の活動について確認、佐藤第一前会長(二関第二高校)より委員会についてのお話を聞くことができました。
今年度も広報紙コンクールを開催い



母親委員会
佐々木 秀子
(盛岡第二高等学校)

大切なのは親子の絆

母親委員会では、活動の柱というべき第14回母親会員交流会を7月3日に実施し、県内52校、162名の参加をいただきました。
近年、スマホやインターネット利用が増え、有害サイト等による犯罪に巻き込まれるという事例が多数寄せられていることから、今年度はスマホに関わる問題について、2名の講師をお招きし、話を聞きました。ネットの安全利用を進めていく上で大切なのは、親子の会話、

たします。多くの学校のご協力をお願いいたします。広報紙は手に取って読んでもらわなければ、ただの紙くずになってしまう。読みたいと思わせる広報紙づくりの一助となるよう努めたいと思います。
9月5日に東北地区調査広報委員会に出席いたしました。その会の記念講演で山形県朝日町の広報担当佐久間淳氏のお話の中に「伝える広報から、伝わる広報が大事です」ということを伺いました。コンクールですので、審査の観点というものがありません。

①学校と家庭を結ぶ、②見やすく読みやすい、③学校の現状を伝達する、④特色ある紙面(特集記事)レイアウト、さらには字体の工夫も必要となつてきます。
まずは、県そして東北に母校を紹介してみませんか。

子どもと親が常にお互いの意見を聞いたり話し合ったりして、いつでも相談できる関係を構築することが不可欠なのではないかということを感じました。
活動事例は、水沢工業高校と二関第一高校で、朝のひと声運動という、子どもを見守り、応援するという活動は共通の取り組みでした。
その後のグループ討議は今年度初の試みで、多少の不安はありましたが、ただ一方的に話を聞くより、いろいろな学校の方々とおしゃべりをしながら意見交換をするのは、とても有意義な時間ではなかったかと思えました。
母親は、日頃身近にいて子どもの支えとなる存在。そんな母親の皆様が手と手をつなぎ合い、母親委員会の活動がますます活発に発展していけるよう、今後とも、会員皆様のご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

「点字ブロック 理解推進事業」 の取り組み

岩手県立盛岡視覚支援学校
PTA会長

高橋 正浩



盛岡視覚支援学校は、創設者の柴内魁三先生の訓えである『自分のことは自分でやれ、天を仰いで歩け』の精神のもと、創立103年を迎えております。

本校は、幼稚部から専攻科までの幼児児童生徒が在籍しているため年齢層が広く、PTA活動に難しさを感じながらもいろいろな工夫をして活動しております。

昨年12月には、盛岡駅構内で「点字ブロックの上には物を置かないように！」と呼びかけながら、チラシの入ったティッシュペーパーを9000部配布しました。参加したのは、高等部普通科の生徒と保護者、教職員の総勢26名でした。

初めはなかなか大きな声で呼び掛けることができなかった生徒たちも、時間が経つにつれて自分から歩み寄って



▲点字ブロックの重要性を伝える(盛岡駅で)

マスコミにも取り上げられ、広く県民にお知らせすることができました。参加した保護者から「今後も継続して取り組みたいですね」といった声が聞かれましたので、今年度も実施する予定です。

今年は、チラシのイラストを小学部の児童が制作したものを使いたいと考えております。皆さま、街で見かけましたら、ご声援ご協力等お願いします。

◇事務局

金 友和(住田 高校)
高橋 秀幸(県高 P 連)
木村 智子(県高 P 連)

委員 長

水野 司(住田 高校)
佐藤 浩徳(大船渡 高校)
川村 司(盛岡市立 高校)
中鉢 謙郎(一関工業 高校)
太田 真弓(久慈工業 高校)

〈編集委員〉調査広報委員会



目指すは 一体感の 見える活動

岩手県立花北青雲高等学校
PTA会長

堀田 圭二



本校は前身の花北商業高校から数えて今年度40周年を迎えた総合的な専門高校で、情報工学科、ビジネス情報科、総合生活科があります。校訓「自立創造」のもと、学習や部活動、ボランティア活動、就業体験など、さまざまな活動に日々積極的に取り組んでいます。

PTAの組織は広報、校外生活指導、学習環境整備、母親の各種委員会と構成されています。広報委員会はPTA会報を発行して学校生活の様子やPTA活動について情報発信を。校外生活指導委員会は通学路でのあいさつ運動で生徒と一緒に元気に挨拶を交わ



▲生徒とともに学ぶ本格的生菓子づくり

し合い、環境整備委員会は石鳥谷駅周辺の清掃活動に取り組んでいます。学習委員会はPTA研修旅行を計画し、昨年度は大学見学後に宮城県沿岸部の復興状況を視察。母親委員会は講習会で生徒たちと一緒に本格派上生菓子づくりを楽しんだり、青雲祭の食堂「おふくろ亭」で名物沖縄八重山そばの振る舞いなどなど。

私たちPTAは、自分の敷いたレールに我が子に乗せる存在ではなく、子どもが自分の力で考え、行き先を決めて、レールを作っていくための環境を整備する存在でありたい。それが親と子の幸福につながっていくと思うのです。すべては子どもたちのためのPTA活動なのだということだけはブレることなく、一体感の見えるPTAを目指して行きたいと考えています。

最近、テレビ・新聞等を見ますと、想定外の事が多々起きています。大震災、ゲリラ豪雨、御嶽山噴火災害などです。防災、減災への取り組みをはじめ、これからの子供たちが幸せに暮らしていくためにはPTAとして今何をしなければならぬか、情報交換や意見交換が行わなければならない。少子高齢化、高校の統廃合の問題もあります。ポロニアが県内のPTA会員のつながりの一端として、情報発信になればと思います。

最後になりましたが「ポロニア」発行にあたりご多用中のご協力いただきました皆様、誠にありがとうございます。今後もPTA活動の活性化につながる会報作成をして行きたいと思っています。

(調査広報委員長・水野 司)

編集後記